

無所属
市議会議員

2期

むつみ

すだ和

わくわく
ねっと
ニュース

(討議用)

対談

まるこ 露の団娘 VS すだ和 むつみ



すだ 和^{むつみ}はいかなる政党、
政治団体にも所属していません。



応援しています!

すだ和さんはこんなひと



高原周治
(小児科医／南武庫之荘)
女性センター所長時代から、子どもの医療や福祉について議論をしています。誰にも分け隔てなく接する姿勢にはいつも感心しています。



佐々木めぐみ
(テラー／南武庫之荘)
今回の選挙に向けたジャケットスーツをご用意いただきました。温かくてユーモアもあり、尊敬できる人です。



黒田菜美
(ネイルサロン経営／園田)
女性センター所長さん時代から、話やすく頼りになる方。SNSで再会し、とても喜んでいました。



渡辺一弘
(外科医／南武庫之荘)
温かい人柄で、防犯や交通マナーなど暮らしやすいまちになるよう意見交換をしています。



仲村智子
(琉球舞踊・文化／南武庫之荘)
子育てと仕事のバランスについてのアドバイスなどをもらい尊敬しています。



吉尾恵子
(書家／武庫豊町)
きちんとした美しい字で、住所と名前を書きたいと、お忙しくてもがんばってほしいです。



岩崎邦雄
(会社員／尾浜町)
女子硬式野球チームの応援を通し、人との絆の大切さを教えてもらいました。



津久井 進
(弁護士／武庫之荘)
女性や被災者の気持ちに寄り添って、それを施策提言できる実力があります。



加藤道子
(元近松応援団／三反田)
とにかくがんばってほしい! もっと女性が暮らしやすいまちになるように。



高原めぐみ
(介護施設長／南武庫之荘)
義理人情に厚く行動力ある、尼崎の明るい未来を市民と共に築いていける人です。



豊来家大治朗
(太神楽曲芸師／潮江)
子育てでパパとして、いろんな事業や施策を教えてください、頼りになります。



外野桜子
(和食／武庫之荘)
一つひとつのことを大事にしながら話をされるので、駅やスーパー前での報告もわかりやすいです。

嘉田由紀子
(前滋賀県知事／大津市)
私が主宰する「未来政治塾」で熱心に学ばれました。ネットワークを大事に活動されています。



被災地から



伊藤仟佐子
(NPO 理事／仙台市)
3.11の2か月後からずっと私費で応援に来てくれました。子育て支援施設の災害時の動きについて、尼崎市で保育士さんなどを対象に勉強会を開かれたのもさすがです。



小野寺 愉
(飲食店／気仙沼市)
3.11 から気仙沼市のことを忘れないでいてくれ、ずっと激励してくれています。尼崎に何かあったら必ず自分たちも駆けつけます。



安孫子浩子
(茨木市議会議員)
お互い議員になる前から、子育て支援の活動で知っていました。ユーモアと温かさにと励まされています。



丸尾まき
(兵庫県議会議員／尼崎市)
県の女性施策については、いつも相談しています。厳しくも優しい助言をいただける私にとっても欠かせない存在です。



寺本早苗
(宝塚市議会議員)
90年代に私が記者として取材をしたことがあります。市への施策提言や気配りがすばらしいです。



藤井宥貴子
(会社経営／熊本市)
熊本地震の後、避難所などでの NPO や指定管理者の仕事ぶりを視察され、それを議会で提案されたと知り、さすがだと思いました。



あまがさきで暮らす その①



尼崎市に他市から転入してきた露の団娘(さん)さんと、すだ和(さん)。上城部のお寺の寄席で出会ってはや4年。今や家族ぐるみでおつきあひする心の母、心の娘という関係です。よそにはない尼崎の魅力と課題を本音で語ります。

- 団娘さん、最近尼崎市内で自宅を購入したということで、とうとう尼崎に定住決定ですね。おめでとうございます。
- ありがとうございます。西宮からあまへ引っ越してきた珍しい一家です(笑)。暮らしやすくて尼崎が大好きです！
- 夫婦共働き、お子さんが3歳。転入・定住施策のターゲット、ファミリー世帯ですね。私は女性センター所長という仕事を、三田市から引っ越して13日目。尼崎市内の全21万2000世帯のうち最も多い単身世帯、つまり一人暮らしです。
- 女性センター所長として5年、議員として8年ですか。私は

落語家として12年、僧侶として6年、母親としてはまだ3年です。

- 歴史ある女性センター・テレビエのこと以外は何も知らず、友人もない尼崎。民営化する女性センターで所長として働いてほしいと誘われたのが2004年。まさか市議会議員になるなんて夢にも思っていませんでした。
- 私は子育てしている稲村和美市長を身近に感じていましたし、須田先生と出会う、個人としての生き方や、議員さんとしての姿勢に感動しました！ 須田先生の政策は、市民としての私の「心の声」そのものです。こんな議員さんがいるなら尼崎でやばりええとこやな、私にびびったりな街やなと思ひ、魅力を感じました。一緒に「公開お悩み相談室」にも取り組んでいただき、ありがとうございます。
- 2016年の8月と12月、あらかじめテーマをある程度しぼってメールなどで募集し、弁護士、医師、カウンセラー、NPO代表、太神楽曲芸師、団娘さん、ご意見番などが答えるという画期的事業でした。実行委員会のみなさんと、相談員ともに無償のボランティア精神で。参加費も500円。

- 8月は夫婦関係、母娘関係、再婚問題、男性の子育てへの偏見、親族によるプライバシー侵害、上司が女性、宗教の違う人との結婚、LGBTへの理解、片づけられない、親が政治家でいや、男性の頭髪の有無による差別

●公開お悩み相談室



で…。たくさんの悩みに、真剣に、少し笑いも入れながら、それぞれの専門分野の相談員が回答しました。その中から、尼崎市の実情や課題を須田先生が情報提供されました。

- クリスマス開催は、お菓子と飲み物付きで1000円。団娘さんの発案で、少人数で身近な人の死、自殺など、命の問題について考えましたね。お子さんを亡くされた方、不妊治療の問題、また、思春期の娘に嫌われていると悩んでいる切実な父親も飛び入りで来られて…。
- 悩みをみんなで共有する中から、この尼崎の市の制度や民間の支援機関を知り、一人で抱え込まないことを伝えられてよかったなあと思います。次は8月頃に開催予定です。
- 2014年には、稲村和美市長と団娘さんの対談のコーディネーターをさせていただきました。「女性がつくる未来とまち 落語&トークの会」。100人以上参加されましたね。
- 大治朗(夫)と協力しあいながらの子育てと、あ、今は大治朗の方が育児・家事とも多くやっていますが、落語家として僧侶としてしっかり働ける。そんな尼崎市になるために須田先生も、ますますがんばってください。
- 団娘さんも、テレビ出演や全国各地での講演、高座、その先で、ご一家で尼崎のイメージアップのPRもしてくださっていますね。とても感謝しています。

(次号につづく)



●稲村市長と団娘さんのトークをすだ和がコーディネート。

稲村和美市長とすだ和



「2017 稲村和美新春のつどい」
(都ホテルニュー・アルカニック尼崎)

「初せり式」(尼崎地方卸売市場)午前5時20分 降り落とされたフグの前で。
「市民のみなさまに大きな福がくる年となりますように」と頬をふくらせています。



出会いは、稲村和美さんが県議会議員、私が女性センター・テレビエ所長だった2004年。県議だと職員に言われるまではわからないほど、ごく自然に子育てママのグループに入られたり、図書室で本を見ておられたり。官と民の協働について、兵庫自治学会での論文作成など、勉強を共にしました。2009年の初立候補時には、選挙活動というものを全く経験していない私に、しっかりと教えていただきました。市長として、市議として、役割は違いますが、ともに暮らしやすい尼崎になるように願っていることは、出会いから12年、変わっていません。

まちづくりにかける思い

Q なぜ議員になったのですか？
政党や政治団体に入らないのは？

A 市内で初めて民営化した女性センター・テレビエの所長として、業績を上げました。当時の白井文市長と稲村和美県議ほか、たくさんの女性たちから、候補を勧められました。組織にしばらくは、しがらみのない普通の女性議員を増やそうという声にも押されました。無所属の姿勢は貫きます。

Q 市政の批判ばかりではなく、提案されています。主なものは？

A 提案したことから実現した主なものは、防災計画女性部会が設置、避難所開設訓練実施、みなし寡婦控除の適用、市民課窓口業務の改善、駅周辺の放置自転車対策の評価、気仙沼市支援の継続、審議会委員や役所の女性の管理職登用(初の女性局長が誕生)等。女子中学生の制服をスカート・スラックス選択制ははまだ実現しません。

Q 議会での発言回数は？

A 定例会一般質問には全回登壇。2期以上の議員では2人のみ。常任委員会等では、相手の発言の意図をくみ取り、こちらもちょうどよくまとめて聞きますから、発言回数が多ければよいとは思っていません。議場では、傍聴者にわかりやすいように、明瞭な発音と適度なスピードを心がけています。

Q 政務活動費の使い方は？

A このニュースなど自分が発信するものはすべて自費でまかなっています。議員として、知っておくべき先進課題の図書購入や研修に政務活動費を使う場合は、会派と議会事務局が入念にチェックします。研修報告には、学んだことを、尼崎市政にどう活かすか、という視点も入れます。



活動報告



こんなこともしています



議会 全ての一般質問に登壇しました。2期目以上の議員では2人だけです。



議会予算特別委員会 分科会長を2度務めました。



議会 予算特別委員会では会派を代表し意見表明。



「議会100周年記念誌」、中学生向けハンドブック「議会へGo!」の編集委員を務めました。



武庫之荘駅南側噴水広場の清掃や、コスモスの苗、チューリップの球根植え付けを地域住民や商店のみなさんと取り組んでいます。通学路の見守りも。



スペシャルオリンピックス尼崎プログラムを支える会でのボランティア。



宮城、岩手、熊本の被災地を訪問、特に女性の状況を調査(すべて自費による)。



1.17 防災訓練に参加。



駅前放置自転車対策の効果。(尼崎市放置自転車対策担当課提供)



市制100周年記念市民合唱団に参加。キダ・タロー指揮で「ああ、尼崎市民家族」等を唄う。(「尼崎市市制100周年記念事業デジタルブック」から転載)

●「会員になっているNPOや団体など

男女共同参画と災害・復興ネットワーク、男女共同参画ネット尼崎、スペシャルオリンピックス尼崎プログラムを支える会、尼崎倶楽部、しんぐるまざーずふぉーらむ・関西、性暴力相談支援センター・ひょうご、WSひょうご、フェミニストカウンセリング神戸、兵庫自治学会(順不同)



大井戸公園バラ園で花ガラ摘みや剪定作業を。



私立学校の生徒に、1.17と3.11の被災時の女性の状況と、支援活動の意義について講演。

やりたいこと

- 「手話言語条例」成立に向けて、手話の勉強を続ける。
- 若い世代と政治について考える本の出版。
- 民間委譲されたバスの安全運行と接遇サービスの自主モニタリングを続ける。



すだ 和のめざすもの

尼崎について語る市民が、不満や批判だけでなく、心から「よいまち」、「暮らしやすい」と思うことが増えるように。

市民の多様な価値観や個性をしっかりとくみ取りながら、市民自身がまちづくりの主役であることを自覚し、市民の願いを実現するための見識と信頼関係のもとで、市との協働をめざします。

教育

●特に秀でた能力や個性を持つ児童生徒をさらに伸ばし、誰もがわかりやすい指導を受けるためのしくみづくり。

子育て

●働くファミリー世帯を支援するための、公立保育所の環境改善と民間保育所への支援を充実。食育の観点からの中学給食の実施。生活が困難な家

庭の子どもの「衣食住」のサポート。

シルバー世代、シニア層

●経験や知識をまちづくりや子育て支援に活かす、「ゴールド人財バンク」のしくみづくり。

まちのイメージアップ

●まず市民一人ひとりが、稲村市政の「シビックプライド（まちに対する愛着と誇り）」をどう培うかの提案。

被災地支援

●6年間、信頼関係を築きながら支援を続けてきた気仙沼市へ、市民レベルでの友情の訪問や交流。

ダイバーシティ（多様性）

●多様性を受け入れてきたまちの力を活かし、障がい者施策、性の多様性、LGBTへの理解、グローバル時代の在住・訪日外国人との共生推進。



連絡先

すだ 和事務所（5月21日～6月8日）
〒661-0033 尼崎市南武庫之荘 1-15-5
パレス武庫之荘 1F（高原クリニックのビルです。）

尼崎市議会議員 すだ和 公式サイト
須田和とわくわくねっと
<http://suda-mutsumi.com/>



すだ和 公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/sudamutsumi/>

カンパはこちらをお願いします
ゆうちょ銀行 00980-1-271585
須田和とわくわくねっと



すだ 和 プロフィール

- 1956年11月、広島県竹原市に生まれる。父親は郵便局員。母は和裁。妹の4人家族で育つ。県立広高校を経て、1975年、大阪外国語大学（現・大阪大学外国語学部）インドネシア語学科に入学。商社勤務の後、結婚、二児の母親に。
- 1991年から地域密着の子育て応援情報誌「大阪子連れパワーアップ情報」を自費出版。母親の視点で提案活動や講演、原稿執筆など。
- 兵庫県立男女共同参画センター他に勤務し、2004年から2009年3月、女性センター・トレビエ初の民間人所長として、受講者のエンパワーとより利用しやすい館へと改革。南武庫之荘在住12年。
- 文部科学省女性のライフプランニング支援総合推進委員、兵庫県ユニバーサル社会づくり総合指針検討委員、兵庫県県民交流広場事業審査員ほか、県内自治体の公職多数。
- 2009年6月、白井文市長（当時）、稲村和美県議（当時）ら多数の市民の応援を受けて、尼崎市議会議員選挙に無所属で立候補、初当選。2013年、無所属で2期目当選。
- 議会では、5つの常任委員（文教、経済環境市民、総務消防、健康福祉、建設企業）すべてを務め、男女共同参画審議会委員、農業委員、社会保障審議会委員、農業委員、都市美委員、尼崎医療健康財団理事、総合文化センター理事などを歴任。
- 息子は8年の海外勤務を経て帰国。娘は認定こども園の調理師を務める。孫は小学生。

